

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援事業所 p o n o p o n o			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性を理解し、子どもと保護者の意向を汲んだ具体的な支援計画を立案し、それに則った専門的な支援の実施が出来る。	各スタッフの持つ専門的な知識と経験を活かし、専門性が高く質の良い療育が提供できるよう、細かな打ち合わせやプログラムの組み立てを毎日実施している。各スタッフのスキルアップのため、外部講師を招いての研修や、外部研修への参加を積極的に実施している。	内部研修回数の増加、外部研修の積極的な活用を引き続き実施し、スタッフのスキルアップを図る。個別支援会議ではスタッフが意見を出しやすい雰囲気を作り、共通理解のもと子どもに合わせた療育について様々なアイデアや療育方法が出されるようにする。
2	保護者や子どもが気軽に相談できる雰囲気を大切にし、適切に情報提供や助言が行える。	フィードバック時には、保護者の感想や最近の出来事などのやり取りも大切にしている。助言が必要な時にはスタッフが対応することもあれば、改めて面接を設定し対応するなど、丁寧な対応を心がけている。また、面接の希望や、ちょっとした悩みも気軽にスタッフへ伝えられるよう、L I N Eを活用している。	帰りの短い時間で、伝えきれないことが多いと感じている。必要場合はL I N Eで保護者へ追加報告するなど工夫する。常に、保護者や子どもの立場に立って、悩みや不安に寄り添っていけるよう心掛ける。
3	子どもたちの特性に合わせた清潔で整頓された室内で療育を提供できている。	まだ1年経過した事業所なので、きれいに見えるのは当たり前だが、毎朝、とても丁寧に掃除・消毒し、教材やおもちゃ、遊具の点検と整理整頓も実施している。今、必要な活動に集中するため、装飾などで不必要な情報をいれないことや、安全に活動できるよう物を置かないことを徹底している。	子どもたちが気持ちよく活動できることや、感染症予防や安全な活動のためにも、引き続き掃除、消毒、整理整頓、物を置かない、飾らない等を実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者勉強会（ペアレント・トレーニング）などの実施を行えていない。	実施にあたり、保護者ニーズやスタッフのスキル、運営体制などの課題を整理する必要があったため。	ペアレント・トレーニングの研修や他事業所の見学を企画し、スタッフのスキルの向上を図る。 実施した際の、子どもの保育や、開催日時、担当職員などの具体的な検討をしていく。
2	関係機関との連携が少ない。	利用者個人についての連携については、保護者の希望や承諾が必要な為、必要性を理解していただけるよう説明を十分に行う必要があった。個別ではなく、児童発達支援センターや相談支援事業所との連携については、研修を通してのみになっている。	個別の連携については、子どもが所属園や家庭内でより楽しく過ごせるよう関係機関連携について保護者へ説明していく。また、児童発達支援センターや相談支援事業所への相談の流れなどを確認していく。